

2022年9月5日(月)

老球の細道687号

### 名コーチとの出会い「世界のコーチ、トステイン・ロイブル」③

会津バスケットボール協会 室井 富仁

トステインとの出会いを作ってくれた大宮北高校の佐藤光壺先生との出会いは1991年のアメリカバスケットボールコーチ研修ツアーだった。ロスアンゼルスで行われたこのツアーは私のコーチ人生に大きな影響を与えてくれたBIG5の一つである。

当時喜多方女子高校でクラス担任をしていた時、この研修ツアーについてクラス通信に『亭主元気でロスがいい』という旅行記を書いていた。急がば廻れ、横道にそれてしまうがその中からバスケットボールに関する内容を抜粋して紹介したい。

#### 【ロヨラ・メリーマウント大学練習見学】

映画で有名な高級街ビバリーヒルズ地区内にあるホテルに滞在していたが、初日の研修はホテルからバスで30分のところにあるロヨラ・メリーマウント大学の練習見学だった。この大学はあの速攻システム「LMU」(大学名の頭文字の組み合わせ)の発祥の地で、このシステムを使ってかつてNCAA選手権で一世を風靡した。その頃のヘッドコーチがポール・ウエストヘッドで、後にロスアンゼルス・レイカースのヘッドコーチを務めた。晩年は日本で松下電器のヘッドコーチも務め昨年亡くなられた。

夜9時から男子の練習がスタートした。ヘッドコーチ1名、アシスタントコーチ4名、マネージャー2名の合計7名のスタッフと選手12名の練習だった。スタッフの人数が多く、選手一人一人に目が届く羨ましい練習環境であった。

コーチングスタッフ、選手は実にエネルギーに動き回る。練習メニューはゲームで起こりえるシチュエーションをピックアップしたドリル15種類。短時間で切れ目なく続き、あっという間に2時間が終了した。

この時に当然LMUの分解練習なども実施されていた。それまで日本で指導用ビデオとして見ていたが、練習を見てその内容の緻密さにさらにインパクトが与えられた。その後私のコーチ人生の速攻システムはこの「LMU」で一貫することになった。

練習後ヘッドコーチに対する質問会が開かれた。私は最初に質問してやろうと準備していたが、残念ながら大宮北の佐藤光壺先生に先を越されてしまった。当時のクラス通信の中には佐藤先生が通訳を介して質問をしたと書いてあるが、現在の彼は英語ペラペラの達人である。この時にすでに「この男、できる！」とただ者ではないところを感じさせていた。私が知る今どきのバスケットのコーチは皆英語が堪能である。

私は佐藤先生の次に質問をした。何と恥ずかしさを超越して会津弁丸出しの英語で質問した。この頃は南こうせつの「神田川🎵」の心境だった。「🎵何も怖くはなかった🎵」。質問の内容はゾーンプレスに関する事だった。私の英語の質問は通じたがコーチの英語での回答は早すぎてチンプンカンプンだった。いずれにせよ、英語で質問できたことが何よりの収穫だった。この時英会話の重要性を認識したがいまだにものにならない。(続く)